

教育理念	学ぶ楽しさを知り、自ら学ぶ力と豊かな人間性を身につける
目標(テーマ)	・基礎学力を再生して(学力回復教育)高校を卒業 ・学ぶ楽しさを体験する科学の授業で、生涯を学び人に ・目覚めよ！自自力。早期にやりたいことにチャレンジ ・目標の実現をサポートする教育システムの提供

※評価基準…A:達成できている B:どちらかと言えば達成できている。 C:どちらかと言えば不十分である。 D:不十分である。

分類	評価の観点	評価項目	具体的な評価項目	評価	評価の観点と理由	改善策
学校運営	教育課程	学習指導要領の対応状況	教育課程は学習指導要領に沿っており、その編成・実施の考え方について、教職員間で共有ができています。	A	・教育課程は、標準モデル科目以外も履修選択できるように構成されている。 ・レポートに対する生徒の理解度及び把握に努め、更なる学習効果の向上に取り組んでいく。	・面接授業においては、引き続き、科目担当者を中心に精神的、学力差に応じた対応、体制にしていこう。
		教育目標	生徒の学力・体調面など、個々の状況に応じた支援・指導を行っている。	B	・基礎学力が不足している生徒、レポートが滞っている生徒への個別対応を定期的実施(名古屋・豊田)していく	・レポート学習(作成)については、支援体制(学習進捗状況案内、レポート支援会の開催)を整えていく。
	教職員連携	組織運営	本部及び本校の校務分掌や主任体制などが適切に機能するなど、学校の運営・責任体制が整備されている。	A	・組織運営や校務分掌、各主任及び主事体制が適切に運用されている。また、新任教職員に対しての校内研修を適時に実施している。	・教員間、事務職員間及び栄キャンパス、豊田駅前キャンパス職員間との連携、情報共有のために、職員会議やスクーリング会議を更に効率良く、質の高いものにしていく。
		教員・教科間連携状況	教職員間の相互理解がなされ、共有及び信頼関係が構築され、教育活動が行われている。	A	・本校、豊田駅前キャンパスとの教職員間による相互理解に基づいた教育活動が行われている。	・各部門会議も定期的に行うとともに、各主任、主事が必要に応じて自発的に会議を開催する体制づくりを行い、意思統一を図っていく。
		教員と事務職員の連携状況	教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解及び連携がとれている。	A	・定期的な職員会議や部門会議(進路・生徒指導、事務職会議等)を開催し、情報共有、意見交換の場面設定が行われている。	
		会議の有効性	職員会議・スクーリング会議などの共通認識・共通理解のもと、有効かつ効果的に機能している。	B		
	財務関係	学校設置会社の役員及び株式の状況	学校設置会社の役員及び株式の状況が事業報告書に記載されている。その状況は学校を運営するにあたり適切なものである。	A	・学校設置会社の経営及び財務に関する状況が事業報告書に記載されている。その状況は学校を運営するにあたり適切なものである。	・学校事務職員による就学支援金業務の習熟を図るとともに、学校設置会社の職員によるサポート体制を採り、適時性・正確性をより確保する。
		学校経営に必要な財務等の状況	学校に必要な財産等の状況が事業報告書に記載されている。その状況は学校を運営するにあたり適切なものである。	A	・就学支援金については、適正に執行されているが、事務体制を再構築(効率性重視)し、適時性・正確性を確保する必要がある。	・自治体によって仕組みの違いがあるが、姉妹校による情報共有等を行い、迅速な対応ができる体制を整えていく。
		高等学校等就学支援金	高等学校等就学支援金に係る事務を適切に執行している。	B		
	施設・設備	面接指導等を実施する施設及び設備	面接指導等を実施する施設が事業報告書に記載されている。面接指導等を実施した施設・設備が教育上、適切である。	A	・面接指導等は、教育特区地域内の学校で行われている。また、連携施設では、本校教職員による生徒指導(面接指導以外)、進路指導等が適切に行われている。	・連携施設における役割(学習支援、課外活動等の内容)の充実を行っていく。
		連携施設	連携施設が事業報告書に記載されている。連携施設では学習面、生活面の支援を行う。	B	・課外活動等の内容については、一層の充実する余地がある。	
	危機管理	役割分担	事故・事件・災害などに対する連携及び役割分担が明確になっている。	B	・関係各所(警察・消防・学校医など)の連携はとれている。また事故、事件、災害時の校内体制も整っている。	・危機管理意識を高めるために半期に1度、全体研修を実施する。
安全管理		学校内の安全点検管理及び諸活動が実施されている。	B	・万が一の災害等に備え、教職員だけでなく、生徒も参加した避難訓練を計画し、実践していく必要がある。	・避難訓練を学校安全計画に位置付け、生徒が体験的に理解できるよう計画的に実践し、万が一の災害等に備える。	
危機管理対応状況		危機管理マニュアルに基づき、市役所、警察、消防と連携するなど、安全対策がとれている。	A	・個人情報管理については、プライバシーの確保を維持しており、研修を行っている。引き続き情報漏洩防止の為、危機管理意識を高める研修を行っていきたい。		
個人情報管理		生徒情報管理が適切に行われている。	A			
教育内容・支援	面接指導・添削指導等	スクーリング参加状況	年間スクーリング日程計画に基づいた参加促進を行う。	A	・関係者評価、生徒評価を基に、スクーリング実施日程や面接授業内容を再検討し、更なる顧客満足度を高めよう努める。	・適切な面接指導時間を確保するとともに、指導内容の一層の充実(創意工夫)を図る。
		スクーリング内容(面接授業)	各科目担当者が創意工夫を行い、生徒の興味・関心・意欲が高められる授業を展開していく。	A	・レポート提出率は、昨年度よりも高い状況であるが、更なる支援を行う必要がある。	・精神的、体力的に不安がある生徒への支援体制(生徒指導主事・保健主事を中心)を更に強化していく。
		レポート内容・添削	レポートが学習成果(興味・意欲・関心)につながる内容になっている。また、インターネットを活用した添削結果の遅延がないよう、計画的な業務を行っている。	B	・スクーリングの授業内容については、学ぶ楽しさ、発見する喜びを知ってもらうことを意識した面接授業を行っている。	・メディア学習の内容を更に生徒個々の興味・意欲・関心度が高くなるよう改善、修正していく必要がある。
	情報発信	ネット回線の有効活用	本校独自でネット開設している「マイページ(通称)」にて、タイムリーな情報提供を行っている。	A	・学校独自のネット開設(通称:マイページ)により、学校イベントなどの情報提供を行っている。また、学校行事の様子を発信する仕組みを更に強化した。	学校独自のネット開設(通称:マイページ)だけでなく、ブログ等のSNSを活用し、紙ベースと合わせて、学校の雰囲気やわかるツールを活用し、学校活動がわかるよう創意工夫をしていく。
		個人に対する効果的な情報提供	本校独自でネット開設している「マイページ(通称)」にて、生徒個々の学習進捗が確認できる。	B	・生徒及び保護者向け情報提供ツールとして、定期的な発信物「通称:ルネキャン」を発送している。	
	情報教育	情報能力知識	各種活用能力の知識を向上させる。	A	学習ツールとしてタブレットを導入しており、情報機器、情報収集についての知識は身につけている。また、情報の対面授業では、SNS活用や携帯ゲームの危険性に関して重点をおきながら取り組んでいる。	SNSから発展する事故や事件の可能性が高まっているため、引き続き特別活動や情報の授業等で発信し更に知識を高める必要がある。
情報モラル指導		情報発信・公開に伴う責任など情報モラルの教育に取り組む。	A			
生徒・進路・保健指導	生徒指導	指導方針の一貫性	指導方針に従い、生徒及び保護者の満足度(進級卒業・進路決定など)を高める。	B	・スクーリング時では、生徒指導主事、保健主事を中心に教職員間で連携を取りながら対応できている。	・定期的なレポート会(支援)を行う等、教員と生徒が対面式でコミュニケーションを取ることができ環境を更に整えていく。
		教員の共通認識と研修	学校組織に基づき、生徒が安全に諸活動ができるよう共通認識にて運営していく。また、生徒の実態に応じたテーマにて、計画的な研修を実施していく。	A	・課題であったスクーリング以外での生徒フォローを、レポート会(学習支援)を実施することにより成果を上げた。また、栄キャンパス、豊田駅前キャンパスを活用し、二面談、三面談を実施することができた。	・保護者を含めた三者面談を計画的に実施していき、保護者との良好な関係を築いていく。
		家庭との連携状況	計画的かつタイムリーな連携をとり、充実した学校生活を送れるよう支援していく。	B	・希望進路実現へ向け、外部との連携を図りつつ、組織的な体制づくりが課題である。	
		いじめ等の問題行動の未然防止	すべての生徒が安心した学校生活を送れるよう、基本方針に基づき、いじめ対策委員会を設置する。	A	・いじめ対策委員会を適切に運営し、特にスクーリング時における、いじめ防止に努めた。	・いじめに関する研修等の充実を図る。
	進路指導	キャリア教育について	キャリア教育(進路指導)に取り組む体制が整備され、生徒の自立に向けた取り組みが実践されている。	B	・希望進路実現(進学・就職)に向け、定期的に面談を行うなど、進路指導に努めている。 ・試験対策(筆記・面接等)の更に強化していく必要がある。	生徒・保護者の進路意識が高められるよう教職員のスキルアップを図るとともに、進路指導部の内部構成を充実させ、適切な体制を構築していく。
	保健指導	健康の保持増進について	心身ともに健康であるための支援(定期連絡やスクーリング時における授業にて支援)	A	スクーリング時の特別活動にて、「健康」をテーマとした学習を実施している。特に生活習慣に重点をおき、生徒が健康で規則正しい生活を送れるよう取り組んでいる。	在宅でも活かせるような健康教育を充実し、生命の尊重・いじめ防止・健康促進に対して意識を高められるようなテーマを掲げ取り組んでいく。
その他	教職員研修	教職員の資質向上を図るため、計画的な研修を実施していく	A	学校内研修(生徒指導)を実施しているが、更なる実践、実務的な研修をしていく必要がある。	校内研修の実施回数を増やし、教職員のスキルアップを図る。	
	学校関係者評価	計画的に実施し、教育の質の向上や学校運営の改善に向け、計画的、継続的に取り組み、開かれた学校づくりを進めていく。	B	年3回、学校関係者評価を実施し、次年度に向けた改善や準備を行うことができた。	更なる質の高い運営を目指していくとともに、公開に向けた準備をしていく。	
	他校及び関係機関との連携	姉妹校や自治地区との交流等をもち、開かれる学校づくりを行っていく。	A	スクーリング時のイベント授業にも参加していたが、更なる開かれた学校づくりに取り組んでいく必要がある。	姉妹校との情報共有(先進事例)をしつつ、運営方法を改善し、開かれた学校づくりを展開していく。	

校長	教頭	事務長
		